

# 弦楽器の基礎知識

## 8) 楽器の値段

たった一台のヴァイオリンの値段がケース弓付きで数万円であるかと思えば、1億円を下らない楽器も多数存在することをご存じだと思います。楽器の値段がどのようにして決まるのかということは誰も興味を持つことだと思います。一般的に音のいい楽器がそれなりの値段が付いてくると考えられそうですが、必ずしも比例してないですし、そのように考えると後でとんでもないような楽器をつかまされるはめになることもあるでしょう。

新作の楽器ですと(楽器工場製の楽器はともかく)本来伝統的に職人によってつくられたヴァイオリンは1台におよそ160-200時間必要とします。材料費は楽器のために自然乾燥させてある材木が必要であり木目の美しさとは寝かせてある年月によって変わります。楽器の値段は製作者の腕の他にその人の国の事情も影響してくるでしょう。東ヨーロッパや南米又は東南アジアの作家の楽器は安く入る可能性が多いわけです。

古い楽器の場合は複雑です。楽器の性能を材木の品質で考えると200年前に切られた木の方が繊維が丈夫で、しかも軽くて楽器として理想的な状態になるため現代物にはない独特の美しい響きを持った楽器が存在するわけです。ただし注意して下さい、これらは楽器そのものが良く製作されていてしかも保存の状態が良ければの話です。多くの場合、割れやひびが入って修理されていたり、ニスも塗り直されていたりする事があります。これらの修理が腕がよくて、正しい知識を持った人たちの手でやられていけばいいのですが、必ずしもそうとは限りません。そして表板や裏板の魂柱の所にひびが入った楽器、これらの楽器は正しく修理されていたとしても本来の半分程度の価値しかないと考えて良いでしょう、ましてひどい修理がされていたならごみに等しくなります。

あとは芸術作品としての価値、これが大きく楽器の値段をつり上げている原因です。もともと音のよい楽器が値段の上下に関与してきたはずなのですが、実際には状態が悪くもう使用に耐えなくても博物館に飾られているような絵画のように恐ろしく高い値段が付くことも頻繁にあるわけです。こうなってくると楽器の価値観は人それぞれに基準が変わってきますが、楽器の値段の基準としてよく注目されるのがオークションの落札価格です。海外の著名な雑誌である Strad や Strings によくでてます。これらの楽器が楽器屋に並ぶときはヨーロッパでも税金や手数料など面倒な費用もかかるので最終的な価格は落札価格より2倍くらいに膨らんでいることも多いでしょう。オークションに行くのに特別な資格があるわけではないのでだれでも行って買うことは可能です。音楽家が自分のための楽器を直接競り落としていくことも珍しくありません。でもオークションなら楽器が安く手にはいると単純には考えないでください。自分で値段を付けるわけですから後悔しても後の祭りです。最近ではインターネットオークションで楽器を落とされた方もよく見かけるようになりました(オークションといっても先程述べたオークションとは全然関係ないです)結構安く良い物を買われた方もありますが、気の毒な人では状態の良くないぼろ楽器を、イタリア製の良い楽器と信じて買っていた人もいました。

19世紀から20世紀にかけて東ヨーロッパでは大量の楽器が生産されています。物は雑につくられている物が多いのですが中には結構よくできているのも見かけます。このような楽器の中でも、良質の楽器がイタリアの青空市場のような場所でべらぼうに安く売られていることもまれにありました。この手の物は盗品か遺品で誰も価値に気づいてないかでしょう。

残念なことに日本では、楽器の値段が安いとそれだけで品質も性能も悪いと思い、より高価な楽器を購入している人を時々見かけます。値段にとらわれずその楽器の性能をきちんとみきわめる目を持つことが大切だと思います。